

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

部門名： 地域とともにある学校部門
 学校名・氏名・修了研修名： 北海道鹿追高等学校 志知 芳彦 平成 30 年度第 2 回校長研修

活動名： グローバルシチズン教育 ～高校と地域がつながる鹿追メソッド～

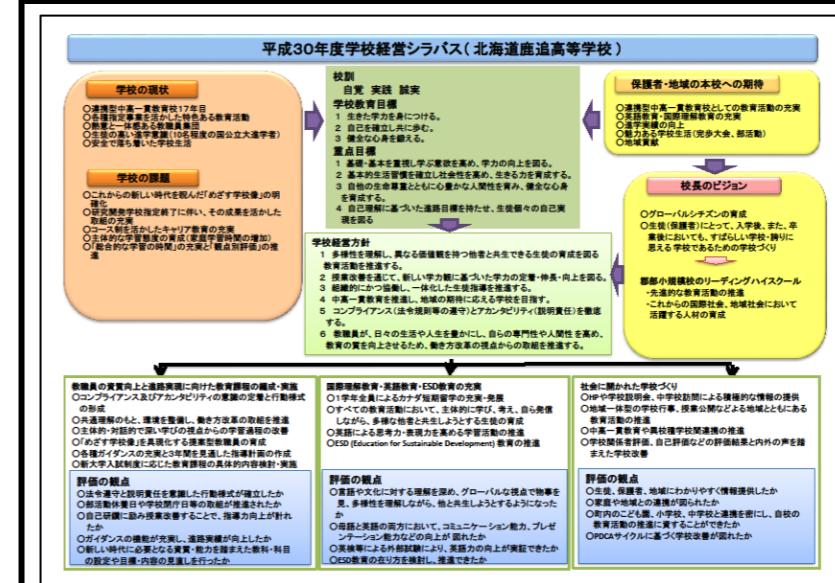
解決すべき課題： 国際化が加速する今日、日本の教育もそれに対応したものとなることが求められている。連携型中高一貫教育校であり、地域からの支援により 1 学年生徒全員によるカナダ短期留学を実施している本校が、文部科学省研究開発学校指定終了後の平成 30 年度以降も、先進的なグローバルシチズン教育を進めていくためには、学校経営のガバナンスを強化することにより、地域とともにある学校づくりに取り組む必要がある。

目標・方針： 課題解決に向けた次の 2 つの取組により、カリキュラム・マネジメントとコミュニティ・マネジメントを両輪とした、地域とつながる「グローバルシチズン教育」を創造する。
 (1) 学校経営方針に、「グローバルシチズン教育」を位置づけ、学校経営シラバスに反映させることにより、教職員は、それを具現化するため、同じベクトルで、教育活動に当たる。(資料 1)
 (2) 地域や中学校との連携・協力体制の再構築を行い、社会に開かれた教育課程を実践する。

活動内容： (1) ・学校経営方針の刷新と教職員面談の活用
 ・国際理解教育推進委員会の効果的な運用とカナダ短期留学の実施(資料 2)
 ・全教科での「主体的・対話的で深い学び」による、コミュニケーション活動を重視した授業の充実
 ・オールイングリッシュによる授業や教科を横断した授業(学校設定科目「カナダ研究」と総合的な学習の時間など)の実践、講演会等の実施
 (2) ・連携型中高一貫教育推進委員会の再構築と交流授業等の実施(資料 3・4)
 ・平成 31 年度からの学校運営協議会(CS・コミュニティスクール)の導入(資料 5)

活動の成果： ・学校経営方針に位置づけ、その理念をシラバスの中でさらに明確化したことで、教職員の意識や学びが高まり、それぞれの立場から関連した実践を進めることができた。(新制服導入による LGBT への配慮等)
 ・教科、学年、分掌の枠を超え、連携した国際交流活動が実践できた。
 ・中学校との連携体制の基盤が確立し、共通した認識のもとグローバルシチズン教育を進めることができた。
 ・町、特に町教育委員会との連携、協力体制の強化により、「世界に通用するグローバルな視点を持つとともに自立した個人と社会づくりに貢献する」という幼小中高一貫したビジョンを共有しながら、町と学校がつながる教育活動が実践できた。
 ・生徒のグローバル意識の高揚が、コンテスト参加や資格取得、海外大学への進学につながった。(資料 6)

アピールポイント(アイディアや工夫)： ・校内外の体制を構築することで、PDCA サイクルが機能し、スムーズで効果的な活動が可能となっている。
 ・地域の深い理解と協力によるカナダ短期留学の実施により、実践の質を高め、地域とともにある教育を展開している。
 ・指定事業や地域からの経営資源を活用することで、グローバルシチズンの理念が教育活動に浸透している。



国際理解教育推進委員会
 1 基本方針
 カナダ短期留学等を通じて国際社会、および郷土に対する関心・理解を深めるとともに、異文化理解の姿勢を身に付ける。
 2 重点目標
 (1) 互いを尊重する心を育て、国際社会に対する関心・態度を育成する。
 (2) 異文化理解の姿勢を養うとともに、自己理解や進路決定のための広い視野を身に付けさせる。
 3 具体的な進路方法
 (1) A 短期留学以前から、訪問、学校行事、留学生との交流など様々な機会を通して、お互いの人格を尊重する心をもつよう指導を続ける。
 (2) B 短期留学中、留学生においても、礼儀や感謝を忘れない指導をする。
 (3) C 留学生の受け入れを機に、交流の場をできるだけ多く設定する。
 (4) D 日本文化紹介の練習を通して、日本の文化とカナダの文化を比較し、伝えようとする姿勢を育成するとともに、報告会において異文化での研究や経験を伝える。
 (5) カナダ以外の海外へも興味関心をもち、各種研修等への積極的な参加を図る。

カナダ短期留学
 1 学年生徒全員が町の補助により、カナダ・アルバータ州ストニブレン町で、15日間の短期留学を行っている。現地では2人1組でカナダ人の家庭にホームステイし、町の小中高で日本文化紹介、研究主題から調査、授業体験など様々な活動を行う。鹿追町とストニブレン町は、1985年に姉妹町提携し、30年以上に渡り、活発な交流を継続し、地域の結びつきを育んでいる。1987年から短期留学制度を開始。1学年全員の生徒による短期留学は、1997年から実施している。

【平成30年度カナダ短期留学報告書の様子】
 会場：町民ホール
 対象：中学生・高校生・町長
 内容：・報告(校内外研修・ホームステイ・留学体験・交流活動)
 ・ビデオ上映(カナダ短期留学の実況)
 ・研究発表(「カナダと日本の高校生生活の違い」)
 ・留学の感想

【資料 1】

学校経営方針に「グローバルシチズン教育」を位置づけることについて

1 基本方針(長期目標)
 (1) 国際理解教育推進委員会
 (2) 国際理解教育推進委員会
 (3) 国際理解教育推進委員会

2 国際理解教育推進委員会
 (1) 国際理解教育推進委員会
 (2) 国際理解教育推進委員会
 (3) 国際理解教育推進委員会

3 国際理解教育推進委員会
 (1) 国際理解教育推進委員会
 (2) 国際理解教育推進委員会
 (3) 国際理解教育推進委員会

4 国際理解教育推進委員会
 (1) 国際理解教育推進委員会
 (2) 国際理解教育推進委員会
 (3) 国際理解教育推進委員会



【資料 3】

北海道鹿追高等学校 CS(学校運営協議会)の基本方針、組織体制及び活動内容

○基本方針
 1 地域と連携し、地域の人的・物的資源を活用した教育活動の推進に努める
 2 地域の取組と一体となった、国際理解教育活動の推進に努める
 3 生徒が学ぶ喜びと充実感の持てる教育活動の推進に努める

○学校運営協議会の組織体制
 学校運営協議会(「総務・国際交流部」、「生活部」、「学習・進路部」の3部会を置く。)

○学校運営協議会の各部会の活動内容
 総務・国際交流部
 ・学校訪問実施
 ・学校パンフレット・ポスター作成
 ・JICA World Study 支援
 ・ストニブレン町訪問受け入れ支援
 ・カナダ短期留学支援
 ・ウィンザー・セント・ジョージズ支援
 ・カナダ短期留学報告会実施

生活部
 ・進路大会支援
 ・進路指導(進路指導)7科目
 ・進路指導(進路指導)7科目
 ・進路指導(進路指導)7科目
 ・進路指導(進路指導)7科目

学習・進路部
 ・インターンシップ支援
 ・地域学習支援
 ・大学見学会支援
 ・就職セミナー支援
 ・進路指導(進路指導)7科目
 ・進路指導(進路指導)7科目
 ・進路指導(進路指導)7科目
 ・進路指導(進路指導)7科目

【資料 4】

生徒への影響について

1 留学に関する調査(平成30年度鹿追高等学校に関する調査結果より)

○調査対象は1年生から3年生まで。

○調査期間は平成30年10月15日～10月25日。

○調査方法はアンケート調査。

○調査結果は以下の通り。

2 全道英語検定大会出場者数

3 日本英語検定協会合格者数

4 海外留学経験者数

【資料 5】

【資料 6】